

(別紙様式 4 - 1)

(県立高等学校・中学校用)

(済々黌高等) 学校 令和2年度 (2020年度) 学校評価表

1 学校教育目標
本覚建学の精神である三綱領を根幹とし、徳育・体育・知育の三育併進、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。生徒を育成するに当たっては
1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成
2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成
3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成を目指す。

2 本年度の重点目標
(1) 社会に貢献できる生徒 (グローバルリーダー) の育成
(2) 生徒指導の充実
(3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底
(4) 学力の向上
(5) 進路指導の強化
(6) 学校全体へのSGHの成果の普及推進

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、様々な教育活動の場に触れ意識させる。	3.1 A	コロナウィルスの影響で多くの学校行事が中止となり、三綱領の精神を発揮する機会も減少した。特に1年生は、生徒・保護者ともに昨年度より評価が下がっている。
	SGH成果の学校全体への普及	グローバル人材の育成	来年度の校外研修・海外研修をより充実させるために内容を検討する。	・済々未来企画委員会が立案して、学校全体で取り組む。	3.0 A	コロナウィルスの影響で今年度の海外研修は中止となった。来年度は研修先にハーバード大学を加えており、より充実したものになると思われる。
	学校の活性化	学校行事の工夫・改善	生徒に活躍の機会を与え魅力ある学校作りを目指す。生徒と向き合う時間の確保を図る。	・運営委員会を定期的に実施し検討・協議の機会を確保する。 ・PDCAサイクルを機能させ年度内に改善するよう努める。	3.1 A	コロナウィルスの影響で多くの行事が中止となったことで、これまでの取組を見直す良い機会となっている。提言に対する対応を工夫して行う。
	職員の資質向上	校内研修の充実	校内研修を通じて職員の資質向上を図る。	・各々が立案し、当面の課題に対し学校全体で取り組む。	3.0 A	予定していた研修はほぼ実施できたが、更に充実させたい。
	安全管理	施設・設備の保守・点検	危険箇所には迅速に対応する。	・定期的な安全点検に加え、報告・連絡・相談を確実に行う。	3.3 A	修理等の要望には迅速に対応できた。職員個々の更なる安全意識の高まり

学 校 経 営	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成のための言語活動を推進し、授業改善にもつなげる。	・各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。 ・各教科で言語活動の充実を図り、授業改善につなげる。	3.0 A	に期待する。 各教科、課題解決力養成のための授業改善に取り組む、生徒の意識も変化しつつある。来年度も継続して行う。
	SOSの出し方に関する教育	リーダーシップ教育を柱としたカリキュラムの工夫・改善	SOSの出し方に関するルーブリックを完成する。	教育相談部とグローバルキャリア課を中心として各部で連携をとりカリキュラムマネジメントを行う。	3.2 A	担当課から講師をお招きし職員研修を実施した。各教科の公開授業はリモートで発信し、県下多くの先生方に視聴いただいた。研究指定が終了しても、継続して授業に取り入れていく。
学 校 経 営	業務改善	職員の負担感軽減	行事の精選と、業務内容の整理及び簡略化を行う。	・家庭訪問の代わりに三者面談を行う。 ・アンケートはICTを活用して行う。	3.0 A	必要に応じて家庭訪問も行ったが、ほとんど三者面談を実施した。今後もそのつもりである。ICTによるアンケートもほぼ定着しつつある。
	働き方改革	職員の健やかな心身の維持	職員の長期休暇中の特休取得率100%、年休取得日数20日以上となる。	・学校閉庁日を5日間設定する。 ・長期休暇中の在宅勤務を推進する。 ・休暇を取得しやすい雰囲気を作る。	3.0 A	5日間の学校閉庁日を設けたことで多少リフレッシュできた。長期休暇中の特休取得率は % で、年休取得日数は9.5日だったが、昨年度より約1.3日多くなっている。休校期間や、職員への働きかけも影響したと思われる。
学 力 向 上	基礎学力の充実	学習時間の確保	平日2時間以上の家庭学習時間を確保させる。	・帰宅時間・睡眠時間等、生活時間の見直しをさせる。 ・家庭学習時間調査の結果を踏まえ主体的に学習に取り組めるよう指導を強化する。	2.9 B	5年前と比較して、生徒の家庭学習時間は増加傾向にある。今後は、家庭学習の中での生徒の主体的な取組の割合を増やしていく必要がある。そのためには、日常の授業と生徒の主体的な学習とが結びつくように授業改善を継続していかねばならない。家庭学習時間調査結果が学年・担任レベルに

学 力 向 上						とどまらないよう、各教科に積極的な活用を呼びかける。 生徒を主体的な学習に導く授業改善、週末課題等の工夫・精選を推進する。
	わかる授業・考える授業の創造	教師の指導力の向上	生徒の学習意欲を高める指導を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会や公開授業を充実させ、生徒が主体的に考える授業展開の工夫、教材の研究に努め、生徒にわかる授業、実力をつける授業を実践する。 ・授業評価アンケートを実施し、生徒の実態・要望などを把握し活用する体制を作る。 ・必要に応じ、オンライン授業を展開する。 	3.1 A	公開授業は、その目的を明確にして参観を促し、公開授業週間に限らず、日常から先生方に負担なく授業参観等ができる仕組みを提案する。授業評価アンケートは、今後先生方の授業改善に活用していただけるよう、継続的に見直しを図っていく。休校中は各教科工夫を凝らし、オンライン授業も実施した。
キ ャ リ ア 教 育 (進 路 指 導	生徒の進路目標の実現	生徒の進路意識高揚に向けた取組の実践	進学資料の提示や、可能な限り、リモートによる講演会、出張講義などを実施し、丁寧な個人指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に刺激を与え、将来のキャリアを主体的に考え、自らの可能性にチャレンジする生徒を育む。 ・面接指導を充実させ生徒を理解し、信頼関係の構築と適切な進路指導に繋げる。 	3.2 A	コロナウィルスの影響で、対面での講演会は減少したが、進学資料の提示やリモートによる講演会や出張講義などを実施し、面談等丁寧な個人指導を行い、3学年とも昨年より評価が上がった。
		教師の教科指導力の向上	難関大入試に対応しうる教科指導力をつけ、魅力的な授業・課外を実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科会と連携し指導力向上と指導法の継承に努める。 ・校内模試の更なる充実を図り、結果を活用する。 	3.1 A	入試問題の分析、解答解説を製本化することにより、より一層の生徒たちの活用を促したい。また、入試問題研究の生徒への還元を目的とした研究授業の実践をもっと広めたい。
		教師の進路指導力の向上	3年間を見通した進路指導の実践力をつける。	<ul style="list-style-type: none"> ・校内での進路に関する職員研修や学力検討会、進路検討会を実施する。 	3.2 A	個々の生徒の第1志望目標達成に向けた各学年の指導者間のチームワークがきちんととれているように思われる。各学年の横の関係だけではなく3年間を見通した学年間の情報の共有を図れるような取組を行っていくことが課題である。

生徒指導	<p>生としての矜持を指 導</p>	<p>德育の推進</p>	<p>「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。</p>	<p>・生徒会行事等において協力し支え合う姿勢を養う。 ・教育相談部と連携して、いじめを未然に防ぐ取組を行う。</p>	<p>3.2 A</p>	<p>機会を捉えモラルの向上を呼び掛け「心の教育」を大切にしているが、思いやりに欠ける言動は皆無ではない。</p>
		<p>基本的生活習慣と自己規律の確立</p>	<p>時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的な生活習慣を確立させる。</p>	<p>・学校全体で各学期登校指導を実施する。 ・全職員共通理解のもと、一貫した指導を行う。</p>	<p>3.1 A</p>	<p>各学期の登校指導は実施できた。服装・頭髪等は概ね良好であり、生徒・保護者・職員全て評価は上がった。今後も全職員による一貫した指導を継続する。</p>
	<p>安全教育の徹底</p>	<p>交通ルールと安全意識の高揚</p>	<p>社会のルールや規則等を遵守するとともに防犯意識を高める取組を実施する。</p>	<p>・交通講話・実技講習会を実施する。 ・二重ロックの励行を生徒交通委員会主体で行う。</p>	<p>3.2 A</p>	<p>自転車通学生の事故は19件だった。昨年度の34件から減少しており、生徒の安全意識が高まったと思われる。自転車二重ロック点検を行うとともに交通事故後の対応を適切に行うよう徹底させる必要がある。</p>
人権教育の推進	<p>豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成</p>	<p>知識的側面からの取組</p>	<p>人権教育における学習指導の工夫改善を行う。</p>	<p>・生徒及び職員に対し校外研修への参加を促す。 ・人権教育LHRや講演会を計画的に実施する。</p>	<p>3.1 A</p>	<p>職員研修では適正採用選考などについて学んだ。アンケートで把握したいじめ事案には迅速かつ適切に対応した。職員研修、人権教育LHRについては人権教育推進委員会を通して改善を図る。「学校いじめ防止基本方針」の周知徹底、及び、アンケートの有効活用を図る。</p>
		<p>価値的・態度的側面からの取組</p>	<p>生徒一人一人の心が内面に働きかけるような指導を行う。</p>	<p>・面談を充実させ生徒が悩みを相談しやすい環境を作る。 ・生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 ・人権教育推進委員会を適宜実施する。</p>	<p>3.3 A</p>	<p>生徒理解のための職員研修を2回実施した。生徒のみならず保護者もスクールカウンセラーとの面談がしやすいよう配慮し、活用いただいた。</p>
	<p>命を大切に育む指導</p>	<p>教材の精選と職員の共通理解</p>	<p>関連する教科・領域等の学習を組み合わせ、多様な指導を実施する。</p>	<p>・全学年とも、計画的に指導を行う。 ・感想の集約等から指導を振り返り次に指導に繋げる。 ※SOSの出し方に関する教育と連動</p>	<p>3.0 A</p>	<p>各教科や特別活動などを中心に取り組むことができた。SOSの出し方教育では、自己肯定感のアンケートを実施し、生徒の把握に活用した。</p>

いじめの防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	・ストレス対処教育のエンカウンターを実施する。 ・生徒会を中心とした啓発活動を行う。 ・いじめ防止対策委員会を毎学期行い、生徒の状況の把握と対応に努める。	3.2 A	1年生は授業再開後にエンカウンターを実施した。また、いじめの未然防止については生徒指導部からも繰り返し注意喚起を行った。いじめ防止対策委員会を計画的に開催しスクールカウンセラーからの助言を受けた。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期発見・早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合、被害・加害双方の生徒に速やかに対応、指導を行う。	・いじめ人権アンケートにより実態把握と早期発見に努める。 ・いじめ防止対策委員会を開催し問題解決に努める。 ・情報を共有し、事後も指導を継続する。	3.3 A	予定どおりアンケートを実施したが、いじめ問題は皆無ではなかった。今後もいじめを未然に防ぐ取組を教育相談部や各学年部と連携を密にしながら行う。
健康教育	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	コロナウイルス、熱中症、インフルエンザなど、生徒が自身の健康状態を把握し、健康で安全な生活を送れるよう指導する。	・生徒保健委員会による「保健だより」の発行や注意事項の掲示により啓発する。	3.4 A	毎朝健康調査を行い、生徒の健康状態の把握に努めた。生徒保健委員会もコロナウイルス感染拡大防止を意識づけるため、保健だよりや掲示物だけでなく、放送や見回り等の啓発活動を継続し、生徒へ注意喚起を促した。
			熊本地震後の生徒の心身の健康管理を行う。	・心と体の健康調査や保健室来室状況から実態把握に努め、職員間で情報を共有し対応する。	3.3 A	昨年度より保健室在室者が多い。特に1年生が多く、上手に高校生活を開始できなかったことが影響していると思われる。今年度は熊本地震の影響がみられる生徒はいないが、今後も配慮を要する生徒には職員、カウンセラー、関係機関と連携しながら対応していく。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	・学校環境衛生検査及び毎月の安全点検を実施する。 ・美化委員による校内環境の整備を行う。	3.1 A	掃除目標を立て、目標どおりに掃除を徹底することができた。一方、エアコン・電灯の消し忘れも多く生徒・職員の環境保全への意識を高める工夫が必要である。
図書	読書習慣の形成	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により読書意欲を高め、図書館利用を促し、読書習慣を身に付けさせる。	・「図書館便り」「麒麟児」「碧落」の発行、生徒図書委員会の広報活動を活発に行う。 ・年に2回「朝の読書」	3.5 A	休校期間があり、貸し出し冊数は昨年度より若干減少した。(1月末現在5318冊) 季節に合わせ

館 教 育			せる。	週間を実施する。		た企画や「図書館便り」等 広報活動も充実しており 、昨年度より評価は上昇 した。今後周知方法をよ り改善し、朝の読書週間 が更に充実するよう工夫 する。
	学習活動 支援の充 実	蔵書や設備 の充実	資料の充実と環境 整備をすすめる。	・自学ができるように 館内のレイアウトを工 夫する。 ・各教科との連携を図 り、必要な資料を収集 する。	3.4 A	館内のレイアウトを変更 し、自学ができる環境が 整った。また、書架や蔵書 も充実した。タイムリー な企画展示で生徒の興味 関心を広げることができ ており、各教科・各学年か ら更に情報を収集し、企 画コーナーをより充実さ せる。
保 護 者 と の 連 携	同心会（ P T A） と学校の 積極的な 連携・協 力	連携を深め 、円滑な校 務運営を行 うための情 報提供	保護者への情報提 供に努め、本校教 育への理解と協 力を得る。	・学校HP・同心会H Pと会報「同心」の充 実と一斉メールの活用 をする。	3.4 A	学校HPの更新が早くさ れつつある。学年ごとの 行事などの記載を増やす 等工夫が必要である。総 務以外の更新者も育成し なければならない。コロ ナ関係の連絡で、一斉メ ールは昨年より活用した が、保護者からの評価は 下がった。
		P T A 活動 の活性化	学校行事等への 参加・協力を促 すと同時に、各 種委員会を活 性化させる。	・行事の案内など迅速 に連絡を行う。 ・来年度中央地区理事 校としての準備を進め る。	3.2 A	コロナの影響で、総会をは じめ多くのPTA活動が中 止となった。来年度は少し でも例年どおりの運営が できる環境になることを願 う。中央地区理事校として の準備は、前任校から引 継ぎ進めていく。
地 域 連 携 （コ ミュ ニ テ ィ ス ク ール など）	学校運営 協議会委 員（防災 型）との 連携・協 力	連携を深め 、防災・減 災を図るた めの情報共 有	学校運営協議会委 員と学校との情報 共有に努め、理解 と協力を得る。	・防災型コミュニテ ィスクールの円滑な運 用を図る。 ・地域と連携した防 災訓練・A E D講習会 を実施する。	2.9 B	コロナの影響で、予定し ていた活動ができなかつ た。来年度からは総合型 コミュニティスクールと してスタートする予定 である。

4 学校関係者評価

(1) 自己評価について

- ・コロナ禍の影響もあるが、概ね高評価であった。
- ・休校、学校行事・PTA行事の中止に伴う不満が、保護者の評価のマイナス因子だと感じた。
- ・新型コロナウイルスの感染危機の中、先生方のご尽力、本当にご苦勞様でした。
- ・読書の機会が少ない。読書力は文系、理系に関わらず学力の基礎となる学習なので、是非向上させてほしい。
- ・感染予防対策は100%に近い施行が原則と思うので、そのように感じなかった保護者が約半数おられたのは残念だ。
- ・休校により授業の遅れも懸念されたが、授業の遅れも少なく、通常に近い結果となり良かった。
- ・学校行事は大幅に制限されており、先輩・後輩とのつながりや、目標に向かって努力してきた結果である達成感を実感できたのか疑問である。
- ・リモート授業の効果だけでは測れない魅力を持つ学校なので、コロナの終息を祈りたい。
- ・生徒指導に関して、昨年と比較して2.8から3.2に評価が上がっており、先生方の御指導のおかげだと思う。
- ・同心会の活動ができなかったのは残念だが、来年度は少しでもできることを望む。
- ・学校HPの更新者の育成を継続して進めていただきたい。

(2) 次年度への課題・改善への方向性について

- ・コロナ禍の影響がいつまで続くかわからないが、できることを実施していくことが重要。
- ・行事日程の変更の検討も必要と思われる。
- ・家庭学習時間が、先生方の御指導により増加傾向にあるのは喜ばしいことだ。
- ・更なる学力向上のために、次年度からは家庭学習の内容の充実を図る方策を御検討いただきたい。
- ・総合的な探究の時間（未来探究講座）での生徒の取組に協力した同級生（卒業生）が、SDG'sに関するその取組のすばらしさに感動していた。
- ・企業価値を判断する上でSDG'sは不可欠な要素であり、今後もこのような取組を継続してほしいし、OBとして協力もしていきたい。
- ・今年度は保健室在室者が多いとのことなので、今後も関係機関との連携した対応をお願いする。
- ・先生方の働き方改革も動き出したので、このまま進めてほしい。

5 総合評価

職員による4段階の評価に基づいて示した評価結果の平均は、全ての評価項目において概ね「3」となった。平均すると「3.16」であり、全体的には概ね達成できていると判断できる。各項目の評価を比較すると、「基礎学力の充実」と「学校運営協議会委員との連携協力」の項目が最も低い。「基礎学力の充実」の評価の観点である「学習時間の確保」は増加傾向にあるものの、家庭学習における生徒の主体的な取組の割合を増やしていく必要があり、そのためには日常の授業と生徒の主体的な学習とが結びつくように授業改革を継続して推進していかなくてはならない。「学校運営協議会委員との連携協力」については、コロナの影響で予定していた活動が実施できなかったのが、評価が下がった原因である。なお、来年度からは総合型コミュニティスクールとしてスタートする予定である。

一方、昨年度最も評価が低かった「安全教育の徹底」については、自転車通学生の事故は昨年よりも減少し評価は上昇したが、ゼロではなく、引き続き安全意識を高めていかないといけない。

「SGH成果の学校全体への普及」については、昨年同様「3.0」という評価ではあったが、コロナの影響で校外研修・海外研修ともに中止した。来年度は代替案も同時進行で検討中である。12月に行われた「済々黌未来探究成果発表会」では2学年全員がプレゼンテーションを行い、充実したものとなった。昨年度からの研究指定事業である「SOSの出し方に関する教育」は「3.2」という評価であった。各教科授業の中に取り入れ、リモートで実施した公開授業は県下の高校から好評価をいただいた。研究指定が終了しても継続して授業に取り入れていく予定である。また、「命を大切に心する心を育む指導」とリンクして、「3.0」という評価を得ている。

6 次年度への課題・改善方策

SGH後の取組として、1、2学年全体で取り組んでいる活動は、課題研究、英語ディベート、校外研修、海外研修と多岐にわたっているが、今年度はコロナの影響で校外研修と海外研修を中止せざるを得なかった。コロナの終息の時期は見通しが立たない中、本来の目的である「グローバルリーダーの育成」のためには、海外研修等の代替案も検討が必要である。12月に行われた「済々黌未来探究成果発表会」では生徒の満足度も高く充実したものとなったが、より充実した内容にするためにも「総合的な探究の時間」の活用、取組について、引き続き改善が必要である。また、昨年度から2年間研究指定を受けた「SOSの出し方に関する教育」は、1学年のエンカウンターや各授業で取り組むことができた。今後も継続して取り組み、生徒の教育活動に生かしていきたい。

コロナ禍で、様々な学校行事が中止となったことが、業務を見直すきっかけとなった。働き方改革という面からも慎重に検討し、改善につなげたい。